

2022年05月30日

R&I格付アウトLOOK——クレジットカード・信販

1. 決算状況と事業環境

クレジットカード市場はコロナ影響が後退し成長軌道に戻ってきた。クレジットカードのショッピング取扱高は経済活動の回復やキャッシュレス化の進展により増加しており、コロナ前を上回る会社も見られる。ただ少額決済の増加が大きく、外食・レジャーなどの高額消費は本格回復に至っていない。収益性の高いリボ・分割やキャッシングの利用は伸び悩み、営業収益はやや弱い動きとなっている。

信販各社の営業収益は安定している。主力のオートローンを中心に半導体などの部材不足の影響を受ける中でも、太陽光や蓄電池といった環境商材や美容関連への商品の多様化や、家賃保証をはじめとした事業ポートフォリオの多角化の取り組みが奏功した格好だ。

カード・信販各社とも信用コストを低位に抑制し、利益水準は底堅く推移している。感染拡大による市場全体への下押し影響は徐々に小さくなってきた。物価上昇が購買意欲を低下させる可能性はあるものの、単価が上昇してプラスとなる面もあり、収支が大崩れする不安は小さいとみている。

2. 格付上の注目点

市場の回復を収益力の強化につなげられるかに注目している。クレジットカード業界ではauフィナンシャルサービス（発行体格付=AA-/ポジティブ）、PayPayカード（A+）、楽天カード（A-）といった携帯キャリア系各社が、通信領域での顧客基盤を武器に、還元メリットを訴求して高い成長性を示している。他社も対抗上ポイント負担を余儀なくされているほか、採算性の低い少額決済の増加、加盟店手数料率への引き下げ圧力の強まりなどで、収益性は低下していく恐れがある。獲得した会員の稼働率・決済単価の引き上げやリボ・分割の利用促進により打ち返していけるか見守っていく。経済活動の回復局面ではメインカード化の進展度合いによって収益水準に差が付く可能性もありそうだ。このほか市場の拡大とともに負担が増すオペレーションの効率化を通じたコスト削減や、反動増が見込まれる信用コストのコントロールも欠かせない。

総量規制の導入によりキャッシングの収益貢献が大きく低下して以降、低金利環境を生かして総資産を拡大させて利益を確保してきた面もある。当面は低金利の継続が想定される一方で、中期的には金融政策の転換も予想されるなど、金利リスクや流動性リスク管理の重要性は増している。資金調達やALM（資産・負債の総合管理）、バランスシートのコントロールに関する方針を確認していく。

3. 個別企業の動向と信用力の方向性

クレジットカード各社の収益性への低下圧力は増しているものの、資金需要の回復を受けた取扱高の増加が続き、信用力は安定的に推移する見通し。親会社グループの経済圏構築を巡る競争が激しくなる中で独立系の動向が注目される。ジェーシービー（A+）は日本唯一の国際ブランドとして、成長性の高いカード会社の利用を促し、クレジットカードを中心とした決済市場における地位を高めていけるようなら格付にプラスとなる。クレディセゾン（証券コード:8253、A+）は独立系ならではの幅広い連携やデジタル戦略への注力により、ペイメント事業の競争力を強化していけるかが課題となる。

信販大手のオリエントコーポレーション（8585、A）、ジャックス（8584、A）は事業の多様化を通じて収益の安定性が高まり、利益の底堅さが増している点や、主要株主であるメガバンクグループからの流動性を中心としたサポートを得られることを評価し、2022年3月に格上げしており、格付の安定性は高いとみている。新生銀行傘下のアプラス（A-/ポジティブ）は、SBIグループ（中核会社のSBI証券の発行体格付=A）との連携の成果が見えてくれば格上げが近づこう。

シニアアナリスト：肝付 卓也

■お問合せ先：マーケティング本部 カスタマーサービス部 TEL. 03-6273-7471 E-mail. infodept@r-i.co.jp
■報道関係のお問合せ先：経営企画室(広報担当) TEL. 03-6273-7273

格付投資情報センター 〒101-0054東京都千代田区神田錦町三丁目22番地テラススクエア <https://www.r-i.co.jp>

信用格付は、発行体が発行する金融債務についての総合的な債務履行能力や個々の債務等が約定通りに履行される確実性（信用力）に対するR&Iの意見であり、事実の表明ではありません。また、R&Iは、信用リスク以外のリスクにつき意見を表明するものではなく、投資判断や財務に関する助言や、投資の是非等の推奨をするものではありません。R&Iは、信用格付に際し関連情報の正確性等につき独自の検証を行っており、これに関し何ら表明も保証もいたしません。R&Iは、信用格付（変更・取り下げ等を含む）に関連して発生する損害等につき、何ら責任を負いません。信用格付は、原則として発行体から対価を受領して実施したものです。なお、詳細につき<https://www.r-i.co.jp/docs/policy/site.html> をご覧下さい。